

比較文学研究室主催

月例シンポジウム 「聴きとる術—震災後の人文学」



2012年6月30日(土)

戸山キャンパス 33-2号館第一会議室

6月30日(土)、午後3時から戸山キャンパス33-2号館第一会議室にて比較文学研究室主催月例シンポジウム「聴きとる術—震災後の人文学」が開催された。堀内正規教授(文学学術院)が英文学の立場から報告を行い、同時に司会を担当。御子柴善之教授(文学学術院)が倫理学、安藤文人教授(文学学術院)がナラティブ・スタディーズ、嶋崎尚子教授(文学学術院)が社会学、鶴見太郎教授(文学学術院)が日本史学の立場から報告。人文学は現実に直接介入して手を加えるというタイプの学問ではないが、世界認識に対して新たな状況を把握する学問であるというコンセプトで開催された。東日本大震災の後のリアリティを感じ取った眼と耳で、各々の研究領域を見直すという狙いを込めたものであり、単に文献から学ぶという研究スタイルから社会的状況を反映した研究スタイルに変貌を遂げつつある人文学のダイナミズムが伝わってくるシンポジウムであった。(報告 海老澤衷)

